

今日のキーワード 米国FOMCの『ドット・チャート』は？（18年3月）

米連邦準備制度理事会（FRB）は、年に8回開催する米連邦公開市場委員会（FOMC）のうち3、6、9、12月に開く会合で、FOMCメンバーによる米国経済と政策金利の見通しを公表しています。米国の政策金利はフェデラルファンド（FF）レートですが、FOMCメンバーが予想するFFレートの水準を“点（ドット）”の分布で表現したグラフは『ドット・チャート』と呼ばれ、金融・為替市場の注目を集めています。

ポイント1

『ドット・チャート』は金融政策を予測するうえでの判断材料 政策の意図を伝達する主要な手段ではないが・・・

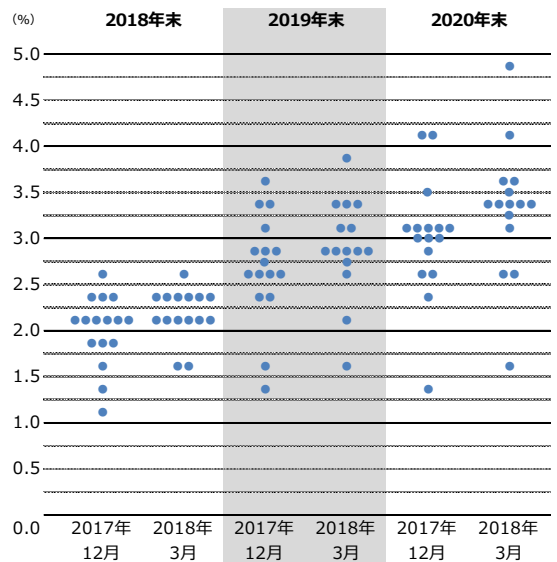
- FRBによれば、金融政策の意図を対外的に伝達する基本的な手段は、FOMCの声明であり、『ドット・チャート』は、あくまでFOMC参加者の金利見通しに過ぎません。しかし、将来の政策金利の動きを予測するうえでの、判断材料にはなりません。

ポイント2

2018年は3回の利上げを予想 19年は2回から3回に上方修正

- 3月20日～21日に開催されたFOMCでは、市場の予想通り、政策金利であるFFレートの誘導レンジが0.25%引き上げられ、1.50%～1.75%となりました。
- 公表された『ドット・チャート』をもとに、FOMC参加者が適切と考える政策金利の中央値が示唆する、1回当たり0.25%の利上げ回数を測ってみると、18年は3.0回、年末のFFレートは2.13%となります。前回12月のFOMC当時と比べ、特段の変化はありませんでした。
- ところが、19年は利上げ回数2.3回、年末のFFレート2.69%から同じく3.0回、2.88%、続く20年は同じく1.50回、3.06%から2.0回、3.38%に上方修正されました。財政支出拡大による景気の刺激効果等を織り込んだためと考えられます。もっとも、「緩やかな利上げ」路線の変更を示すほど大きく修正されたわけではありません。

【FOMCの最新ドット・チャート】



(注) 横軸はFOMCの開催年月。
(出所) FRBの資料を基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

市場の利上げ予測は、FOMCメンバー見通しと同じく緩やか

- 直近のFF金利先物市場は、2018年の利上げを約3回と見込んでいます。市場が織り込む利上げのペースと、『ドット・チャート』から推測されるFOMCメンバーの見通しは、ほぼ同じということになります。
- 物価上昇率が低い水準で落ち着いていることを踏まえると、FOMCメンバーや市場の予測通り、「利上げのペースは緩やか」なものになりそうです。そうであれば、市場に及ぼす影響は限定的と見られます。

ここも チェック!

2018年3月29日 米国経済と長期金利の見通し（2018年3月）
2018年3月22日 緩和解除を進める米国の金融政策（2018年3月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。